

2024 年度 (令和 6 年度) 学校評価自己評価表

大門 中学校区 校番 54 福山市立 野々浜小 学校

最終更新日 2025年(令和7年) 2月14日

I 福山市

ミッション 福山に愛着と誇りを持ち、変化の激しい社会をたくましく生きる子どもを育てる。

ビジョン 「福山100NEN教育」の基本理念のもと、各中学校区・学校が「21世紀型“スキル&倫理観”」の育成に向けた特色ある教育課程を編成し、日々の授業を中心として評価・改善を進めながら、子どもたちの確かな学びを実現している。

II 中学校区	前年度学校関係者評価の主な内容	児童生徒の現状	育成する力 (21世紀型“スキル&倫理観”)	課題発見・解決力 思考力・判断力・表現力 主体性・積極性 共感力
	・子ども主体の活動を推進する。 ・情報発信及び地域行事への参加等により、地域と学校の協力体制を図る。	・思考力・表現力に課題がある。 ・自尊感情が高まりつつあり、主体的に行動する姿が増えつつある。 ・運動やスポーツに進んで取り組む児童生徒が少ない。 ・地域行事やボランティア活動等に積極的に参加している。	めざす子ども像 (義務教育修了時の姿)	自己を認識し、自分の人生を選択し、表現することができる力を身につけた生徒
			中学校区として統一した取組等	・「子ども主体の学び」に向けた授業を創る。 ・レーダーチャート等を活用し、学級力や自尊感情、主体性を高める取組をする。 ・運動に親しむ取組、体力向上の取組を進める。 ・学校における働き方改革を進める。

Ⅲ 自 校

ミッション
「仲間と共に学ぶ楽しさ」「働く喜び」があり、 保護者・地域が誇りにする学校

学校教育目標
よりよく生きようと学び合う子どもの育成 ～ かしこく うつくしく たくましく ～

現 状
〈児童生徒〉 ・配慮の必要な児童に対する支援を充実させたことで、学びに向かう意欲や基礎学力を高めることができつつある。 ・行事に向けた目標設定や振り返りの充実によって目標をもつことへの意識が高まっている。 ・体力づくりに関しては、個々の課題に合った練習方法を自分で考え、取り組む力がついてきている。 ・自尊感情については、自己肯定感の低い児童が多くいることや児童同士の支え合う力に課題がある。 ・クラスの生徒指導上の課題から学習への意欲を下げている児童が増えている実態がある。  〈授業〉 ・各担任が授業の見学をし合うこと等を通して、教材研究への意識を高めつつある。 ・自己決定や自分が選んだ学び方を振り返る時間を計画的に設定している。 ・授業における対話場面が単元の中で計画的に設定されていない。 ・児童同士の発言に対する反応や評価の指導が不十分である。 (生徒指導の三機能を生かした授業づくり)

育成する力 (21世紀型“スキル&倫理観”)	課題発見・解決力	思考力・判断力・ 表現力	主体性・積極性	共感力	
めざす 子ども像	1・2年	自分で疑問や課題を見つけ、生活体験や既習事項をもとにして解決しようとしている。	生活体験や既習事項から順序立てて自分の考えを持ち、絵や言葉、動作などを駆使して表現している。	自分がやらなければならない勉強や仕事を進んでいる。	身近な人に温かい心で接している。
	3・4年	疑問に思ったことから課題を設定し、生活体験や既習事項、収集した事項を根拠にして解決している。	生活体験や既習事項から理由や根拠をもとに自分の考えを持ち、絵や言葉、動作など適切な方法を選択し、表現している。	集団の中で、自分がやるべきことに気付き、進んで行動している。	相手の気持ちを考え、行動している。
	5・6年	疑問に思ったことから課題を設定し、生活体験や既習事項、収集した事項を根拠にして解決し、新たな課題を見つけている。	生活体験や既習事項から適切な理由や根拠をもとに、自分の考えを持ち、目的や意図に応じて、論理的に説明したり、適切な方法を選択したりして表現している。	集団の中で、相手や場の状況に応じて、自分でより高い目標を持ち、自分から行動している。	相手を思いやることの大切さに気付き、相手の立場を尊重し、行動している。

研究	テーマ	児童が主体的に学び、思考力・判断力・表現力を高める授業づくり ～指導と評価の一体化を基盤とした授業づくりを通して～
	内容等	算数科を中心に、児童の実態に応じた学習過程の在り方を研究することを通して、「深い学び」の実現を目指した授業づくりを創造する。

めざす授業の姿	・児童が進んで学びに向かい「できた・わかった・楽しい」と思う授業 ・児童が学び方、学習内容、表現方法を選択し、学びが深まる授業
---------	--